

研究講習事業報告

学発番号: 学22-034
事業名: 令和4年度京臨技病理細胞検査精度管理報告会
日時: 令和5年2月19日(日) 13:00~1
場所: webによる講演会
主 題1: 病理分野タスクシフトの状況について(京都府)
講 師1: 陣内 慶大 技師(京都大学医学部附属病院)
主 題2: 病理検査精度管理報告と解説
講 師2: 山口 直則 技師(綾部市立病院)
主 題3: 細胞検査精度管理報告と解説
講 師3: 山口 直則 技師(綾部市立病院)
主 題4: 免疫染色の精度管理について
講 師4: 森原 優女
参加数: 総数:41名(京臨技会員:38名)
報告者: 竹腰 友博(京都市立病院)

以下、講演内容など

通常報告

最初に、京都府下における病理細胞分野のタスクシフトについてのアンケート報告がなされ、現状と意識調査についての報告がなされました。その後、精度管理結果報告と解説を行いました。病理検査は、免疫組織化学染色(CK20)を実施しました。未染色スライドを配布し各施設で染色された標本を回収しました。判定は班員及び判定会議に参加希望のあった施設代表者で行い、Whole slide imagingスキャナーを用いリモートで施設名を匿名化し供覧しました。22施設より標本を回収し評価を行いました。20施設がA評価、2施設がB評価でした。多くの施設で良好な染色が実施されていました。細胞検査では、日常業務にて遭遇する可能性の高い症例や特徴的な細胞所見を有する症例15例と、知識の確認・向上が目的の教育的症例(評価対象外)を2例、バーチャルスライドを用いた1例(評価対象外)の計18例を出題し、提示写真から回答するフォトサーベイを実施しました。正答率の評価基準を80%とし、良悪の判定と組織型の推定が出来る事を目的としました。参加施設は24施設で、15問の全体正解率が98.3%、施設別正答率は92.9%以上で良好な結果と考えます。バーチャルスライドに関して様々なご意見をいただきましたので、来年度の参考にさせていただきたく思います。後半は、ロシュ・ダイアグノスティック株式会社、森原優女先生により「免疫染色の精度管理について」と題し、プレアナリシスからポストアナリシスまでの内容について、分かりやすくご講演いただきました。今後も京都府下の施設における染色技術の習熟と向上に努めていきたいと思っております。大変多くの知識を得ることができた有意義な報告会ならびに講演会でした。